

瀬戸の夕陽夢プロジェクト

まさに夢の共演と言ってよいでしょう。「瀬戸の夕陽」をモチーフとした、彫刻とジャズの巨匠二人のコラボレーション。それには、世界の中で今ここにしかないオンリーワンの輝きがあり、響きがありました。

「瀬戸の夕陽夢プロジェクト」と名付けられたこの催しは、毎年夏に開催されているサンポート・ジャズ・フェスティバルの10周年を記念して企画され、去る8月7日の夕刻、披露されました。「SUNSET of SETO」をテーマに、庵治町にアトリエを構え、ニューヨークのワールドトレードセンターの「雲の砦」（同時多発テロにより消失）など、国内外に多くの作品を残してきた彫刻家流政之さんが新作を制作し、サンポートに設置。そして、50年以上前にアメリカに渡り、現在も日本が世界に誇るジャズアーティストとしてニューヨークを拠点に活躍されている穂吉敏子さんが新曲を作り、プロジェクトの実行委員長である関元直登さん率いるSWJOと一緒に世界初演を行いました。

瀬戸内海に沈む夕陽の美しい情景を、彫刻とジャズという全く異なる芸術文化に凝縮し、形と音として残そうというアイデアは、フェスティバルの初代実行委員長だった故中澤正良さん（元NTTドコモ四国社長）が生前に構想されたものだそうです。天国の中澤さんを含めた関係者の熱い思いが通じたのか、当日は晴天微風の絶好の天気。主役である瀬戸の夕陽は、途中雲に隠れながらも間際には赤みを増した顔を少しのぞかせて、空と海を鮮やかに染めながら沈んでいきました。それに合わせて新曲「瀬戸の夕陽」が演奏されると、満員のテント広場は最高潮の盛り上がりを見せました。

流政之さん88歳、穂吉敏子さん81歳。現役バリバリでご活躍中のお二人は、かくしゃくとして、今なおしっかりと未来を見つめています。穂吉さんがヒロシマのために書いた曲「HOPE（希望）」が最後に演奏されました。その時、フェスティバルのもう一つの趣旨である、東日本大震災からの復興を願い、未来を生きる子ども達に夢と希望を与えるメッセージが、高松から世界に向けて力強く発信できたように感じました。